

利用しやすいバス路線へ

24年度見直しへ協議中

増富 理津子 議員(共産党)

①年間を通じて待機児童の解消は、「つめこみ」ではなく、保育所整備を行い、体制の強化と保育内容の充実を求める。保健福祉部長 宅地開発や保育ニーズの動向に留意し、必要な保育所の整備に努める。

②「介護予防・日常生活支援総合事業」の導入は市町村判断とされている。軽度の要支援者を保険給付からはずすなど、

③社会保障であり国民皆保険制度の根幹である国保は、いのちと健康を守る重要な役割を担っている。国保に対する市長の認識と見解を問う。また高すぎる国民健康保険税の引下げを求める。

市長 国民皆保険制度ができて以来、医療制度の中心を担ってきた国保の役割は大きい。保険税の負担は大変であることは認識しているが、将来にわたり制度を構築することが保険者の責任であると考えている。



市民の公共交通である路線バス

市民部長 2億円程度の基金の財源確保は不可欠。国保税の引き下げはできない。

④22年度からクラブ費、生徒会費、PTA会費を就学援助制度の支給項目として加えるの見直しが行われ、近隣自治体でも実施されている。京田辺市でも早急の実施を。教育長職務代理者 24

⑤22年度からのバス路線の変更に伴い、常磐苑の利用がしにくい状況になっている。見直しを。安心まちづくり室長

24年度、見直しのための協議を行っている。

難病者への医療費助成を 国の動向を見守りたい

南部 登志子 議員(無党派)



利用状況の改善が望まれる公共交通バス

①公共交通について。計画策定当初の市長の思いを再確認する。②策定当初の利用予測と実際の利用状況および現時点での課題と課題は、③買い物困難地域解消などの住民要望に添えていくために、小回りの効くワゴンバスや公共交通タクシーの導入が最適と考えるが、市の見解は、

市長 ⑦利便性の維持向上、交通弱者の移動手段の確保、公共交通の空白地解消という思いだ。安心まちづくり室長

⑧京阪バスは一日乗降客数460人の見込みが運行実績では321人と

下回る結果、奈良交通では三山木高船線は当初予想どおり、東部循環線では予想を上回り、一日40人の見込みが実績では52人となった。これらの結果を踏まえ、さらに利便性が高くなるよう関係機関と協議する。⑨公共交通タクシーは現在導入する段階にはないが、路線の維持が困難になれば、参考にしたい。

⑩医療費問題について。⑪子育て支援医療費無料化の引き上げは、対象世帯の所得制限や自己負担額の引き上げ等を行うことが必要と考える。⑫医療費負担の公平性という観点から、低所得世帯や難病をお持ちの方々に

してこそ助成を行うべきと考えるが、市の見解は。保健福祉部長 ⑬本助成は子どもの健康保持・増進を図るものなので、なじまないと考えている。

⑭低所得世帯には制度がある。難病をお持ちの方々には、国で制度の見直しに向けて議論が行われているので、その動向を見守りたい。

⑮田辺勇田に新しい住宅地ができたが、周辺の歩道整備が十分でない。農業用水路等もあり、早急な整備が必要と考えるが、市の認識は。建設部長 今後、周辺の開発状況を見据えて、総合的に対策をとってきたい。

地域の防犯対策を 防犯カメラ6台設置する

小林 喜代司 議員(新栄会)

①近鉄新田辺駅西口地域の防犯対策は地元区、自治会を始め、多くの市民の皆さんの要望を聴き、平成21年第4回定例会本



防犯カメラが設置される 近鉄新田辺駅西側周辺

会議と23年第2回定例会本会議で質問と要望を行った。市は田辺駅前支部の防犯推進委員を23年度中に現在の14名から27名に田辺警察署から委嘱される等対策が進められているが、市民が安全で安心が実感できる対策を早急に講じていただきたいと思っているが、市の考えは。

安心まちづくり室長 近鉄新田辺駅西口周辺の防犯対策として、23年度中に防犯カメラを6台設置するとともに、現在田辺署をはじめ縦横防犯推進委員連絡協議会等で、交番を核とした住民と行

防犯カメラ6ヶ所の設置場所については、警察と協議をして犯罪の多発する箇所を重点的に現場を検討して実施したい。

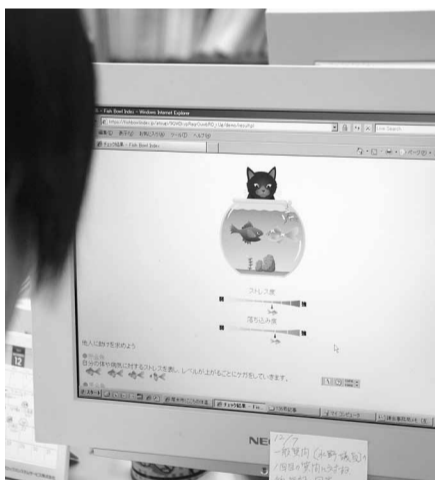
②府道八幡木津線の新地区の一休寺道から興戸地区の同志社前駅間の交通安全対策については、多くの市民、田辺幼稚園

田辺小学校、田辺中学校へ子どもをかわせている保護者の強い要望があり、19年第2回定例会本会議で安全対策を要望して以来、再三お願いしてきた。市をはじめ関係者の努力により安全対策を講じてもらっている箇所もあるが、現在、府山城北土木事務所、田辺警察署、市との間でどの程度まで協議が進んでいるのか。

建設部長 道路幅員が狭いことから危険な状況は認識している。興戸地区の防壁川切り下げ工事に伴い、一部歩道が設置される計画であり、右折レーンを配した新茶屋前交差点の改良が早期に完成するように京都府には、たつきかけている。

ここころの体温計の導入を 多様な方法として研究

櫻井 立志 議員(公明党)



インターネットでメンタルチェックしている様子

①心の健康を守るため、心の状態をチェックできる「ここころの体温計」を導入してはどうか。

保健福祉部長 民間会社が作成したシステムで、利用者が気軽に自己チェックできると認識。本市としては、まず国や府のサイトを利用した心の健康についての啓発を進めていきたいので、今のところ実施の考えはない。

②妊娠しても流産や死産を繰り返す不育症の女性への治療費助成と、安心して相談できる窓口を開設すべきでは。保健福祉部長 治療費

助成については、市独自に助成する考えはないが府と連携して取り組みたい。相談窓口は府の指導を仰ぎ、今後検討する。

③交通事故やスポーツ外傷により発症する脳脊髄液減少症患者への支援についての考えは。

保健福祉部長 府と連携しながら、国の研究動向について留意したい。

教育長職務代理者 現在までこのような症例の生徒はいないが、いつ発症するかわからないので、教職員に脳脊髄液減少症への認識を深めさせ、国の動向に注意しながら情報提供していきたい。

④国民文化祭後の本市の総合的な観光施策は。

経済環境部長 国民文化祭を契機に「一休さんと玉露のまち・京田辺」を広くアピールすることができた。平成24年、中国でアニメの一休さんが放映されることから、一休さんを本市の観光の目玉として、継続的、総合的に観光振興の充実に取り組んでいきたい。

⑤本市窓口において、身分証明という表現を見直し、本人確認と改めるべきだが、市の考えは。市民部長 本市窓口では、本人確認書類という表現でアナウンスを行っている。本人確認の目的で身分証明書という表現は用いていない。今後このように対応したい。